

埼玉医科大学病院の患者さんへ

新型コロナワクチンの接種につきましては、以下の説明を参考にしてください。ワクチンは下記1～4に該当しない限り、**ほとんどの方は接種可能**です。重篤な過敏反応であるアナフィラキシーの発症頻度につきましては、ファイザー社のワクチンでは **4.7/100万接種**と報告されています。接種が難しい病状に該当する方は主治医とご相談ください。

ワクチンを接種することができないのはどのような人ですか？

1. 発熱している方（37.5℃以上）
2. 重い急性疾患にかかっている方
3. ワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の過敏症の既往歴のある方
4. 上記以外で、予防接種を受けることが不適切な状態にある方

詳しくは、「厚生労働省ホームページ新型コロナワクチンについて」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html

をご参照ください。

ワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の過敏症の既往歴のある方(補足)： ファイザー社のワクチンに含まれるポリエチレングリコール(PEG)に対して重いアレルギー反応を起こしたことがある方への接種は推奨されません。PEGに似た構造を持つポリソルベートに対して重いアレルギー反応を起こしたことがある方も、過敏症発症時の十分な対応ができる体制のもとに限り考慮できるとされています。PEGは腸内検査をする際に用いる腸管洗浄剤の主成分であり、飲み薬や塗り薬、目薬等の添加物としても用いられています。さらにヘアケア製品や歯磨き粉等に用いられており、保湿等を目的とした化粧品にも含まれています。ポリソルベートは、医薬品の他、乳化剤などの食品添加物として様々な食品に用いられています。なお、モデルナ社のワクチンもPEGを含有し、アストラゼネカ社のワクチンもポリソルベートを含有しています。**重度の過敏症とは、** アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状を呈する状態を指します。

上記以外で、予防接種を受けることが不適当な状態にある方(補足):

●慢性的な病気のある方: 接種ができる場合がほとんどですが、病状が悪化していたり、全身が衰弱している場合は避けた方がよいと考えられます。

●高血圧、糖尿病、高脂血症、喘息、肥満、狭心症、心不全、肝臓病、腎臓病などの方: ワクチンを接種することができます。透析患者さんでは、念のためシヤントと反対側の腕に接種してください。

●がん、骨髄移植や臓器移植後、先天性免疫不全、HIV 感染の方: 一般に免疫力が低下する傾向があり、予防接種の効果が低い可能性があります。接種は可能です。ただし、抗がん剤投与数日前～投与日や投与後の白血球数減少期、血小板減少期は避けるなど、接種時期については主治医と相談が必要です。

●関節リウマチや膠原病で薬物治療中の方: 病気が落ち着いていれば接種は可能です。ステロイド、タクロリムス、TNF 阻害薬、抗 IL-6 受容体抗体など、多くの薬剤はワクチン接種に際して調整する必要はなく継続投与可能とされています。一部の薬剤では接種時期の調整が必要な場合もありますので、主治医と相談してください。

●血友病などの病気や抗凝固薬服用などで血が止まりにくい方: 筋肉内出血のリスクがあるため、接種後に接種部位を圧迫していただく必要がありますが、接種は可能です。

●けいれん発作が起こる方: けいれん発作の状況がよく確認されており、病状と体調が安定していれば、主治医と相談の上で接種可能です。

●他のワクチンや食べ物に対して、重いアレルギーのある方: 新型コロナワクチンの接種は可能とされています。ただし、過去に新型コロナワクチンに対して、アナフィラキシーなど重いアレルギー反応を起こした方や、ワクチンに含まれる成分に対して重いアレルギー反応を起こしたことがある方への接種は推奨されません。喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎 食品、ペット、ハチ毒、ダニ、カビ、花粉、ラテックスなどに対するアレルギーでは、ワクチン接種後のアナフィラキシーのリスクは変わりません。コントロール不良な喘息患者では、万が一アナフィラキシーをきたした場合、重症化するリスクがあり、対応可能な施設での接種が望まれます。

●過去に新型コロナウイルスに感染した方: 接種が可能です。接種まで一定の期間をおく必要がある場合がありますので主治医と相談してください。

●寝たきりの状態の方: 在宅介護を受けている方もワクチン接種は可能です。在宅での接種については、かかりつけ医と相談してください。介助があれば接種会場や医療機関へ移動できる場合は、ケアマネージャーとご相談ください。

○妊娠中、授乳中、妊娠を計画中の方: 新型コロナワクチンを接種することができます。ただし、妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、海外のデータから現時点で特段の懸念は報告されていませんが、安全性に関するデータが限られていることから、接種のメリットとデメリットをよく検討して判断していただくこととしています。日本産婦人科感染症学会・産婦人科学会からは、「感染リスクが高い医療従事者、重症化リスクがある可能性がある肥満や糖尿病など基礎疾患を合併している方は、ワクチン接種を考慮する」と提言されています。